

式 辞

比良の山々にはまだ雪がありますが、厳しい湖西の冬も終わり、ようやく春の訪れを感じるこの佳き日にご来賓をお迎えして、式典を開けることを喜ばしく思います。

ご卒業ならびに大学院修士課程の修了、誠におめでとうございます。

学生諸君のご家族のみなさまに心よりお祝いを申し上げます。

学生諸君自身が頑張ったこととは思いますが、経済的にも精神的にも支援を続けてくださったご家族のみなさまに、君たちは心から感謝をしてください。自分がいかに恵まれた環境にあったことが自覚できるかも知れません。ご家族のみなさん、学校の恩師、スポーツの監督・コーチ、そして友人への感謝の気持ちを忘れないでください。

学園後援会会長の黒田光様、蹊友会会長の薮田一子様、びわこ成蹊スポーツ大学教育振興会会長伊庭由紀野様にご臨席賜り誠にありがとうございます。

さて、卒業生のみなさんは大学入学前の高校2年生から3年生にかけて新型コロナウイルスが大流行となりました。高校最後の大会が中止となり、不完全燃焼な高校生活を送られたことと思います。

そのようななか、本気でスポーツを学びながら競技に取り組むことができるという期待を抱いて本学へ入学されたことでしょう。

入学式のあと、期待と不安のなかでの、初めて出会う仲間との「フレッシュマン・キャンプ」はその名の通り新鮮な出会いと体験があったと思います。本学の特徴的な立地である標高1,000メートルの比良山地と白い砂浜の琵琶湖に囲まれた豊かな自然環境を満喫するとともに、自然の厳しさを感じたことと思います。

新学期が始まり、あっという間の文武両道の4年間の学生生活であったと思います。1年次の2021年には東京オリ・パラ競技大会をスポーツ大学の学生として経験しました。無観客とはいえオリ・パラが自国で開催されたことは、競技に携わる人々には大きな励みになったはずです。2024年にはパリ大会と在学中に2度の夏季オリンピックを経験しました。パリ大会では団体球技であるサッカー、バスケットボール、バレー、ハンドボール、ラグビー、ホッケー、水球の7競技すべてに日本代表が派遣されました。オリンピックの団体球技は、そもそも世界ベスト12カ国しか参加できないので、日本の球技全体のレベルが着実に向上してきていることがわかります。

コロナがあったからこそ、オンラインでのトレーニングや時間をかけた映像分析技術なども進展しました。まさに、スポーツ×デジタルの時代が加速しています。

本学の競技面では、女子ハンドボール部は創部初のインカレ出場から2年連続出場を果たし、今年度はベスト8へ躍進しました。

男子サッカー部は2024年シーズンはリーグ戦では悔しい結果となりましたが、1年次にはインカ

レベル8を経験し、4年次には天皇杯に滋賀県代表で出場することもできました。

毎年、京滋リーグで優勝争いをする硬式野球部（男子）は、2024年の秋季リーグ戦ではあと1勝すると「悲願の初優勝」と期待の高まるシーズンでした。

陸上競技部は、関西インカレで2年連続男子総合5位の結果を収めました。

男子バスケットボール部は、2023年シーズンには創部初の1部昇格をかけた入れ替え戦に進出するなど、ここ数年着実に力を伸ばしています。

他の運動部も含めて皆さんの努力奮闘は、近い将来、必ず皆さんの想いを引き継いだ後輩たちが各部の目標を実現してくれるはずです。

大学でのスポーツ活動を通して、嬉しいことも悔しいことも経験されたことと思いますが、すべてがみなさんの人生の糧となることでしょう。とりわけ最も大切なことは生涯を通じて付き合える仲間を得たことと思います。

私も大学時代は硬式野球部に所属していましたが、当時の同期のメンバー14名、先輩、後輩たちとも今でもつながっていて、たまには集まって食事をしています。社会に出て利害関係のない信頼のおける仲間がいることは人生の財産です。

また、学びの面では、新たに「プロスポーツコアチーム」が始動し、みなさんが一期生となりました。プロスポーツ現場でのインターンを通じて、プロスポーツ業界で即戦力としてこれから新しいチャレンジに挑む学生も数名います。

そして、小学校・中学校・高校・大学の学びの集大成として「卒業研究」にも注力しました。「する」だけでなく、学術的にスポーツ学を全員が探求することができました。

アクティブラーニングの究極ともいえるゼミと卒業研究を本学は最重要科目と位置づけていますが、学生諸君と教員とで取っ組み合いながら、あーでもない、こーでもないと思慮を巡らせながら、締め切りまでに完成させることができたことは生涯の記憶に残ることと思います。この卒業研究の経験がみなさんの自信となり、今後の人生に大きく役立つことは間違いないと思います。

他にも、演習や実習を通じてコミュニケーション能力や協調性など多くの「人間力」を身につけたのだと思います。開学以来の伝統の一つとして挨拶があります。キャンパスの訪問者に対して、学生の誰もが「こんにちは」と笑顔で挨拶ができるのは本学の良き習慣です。挨拶は、誰でもできるはずなのですが、笑顔で素直に明るく挨拶ができる人は必ずしも多くはありません。それはみなさんが子どもの頃からスポーツを続けてきた結果として得られた大切な宝物です。だから、就職率100%が10年間も続いているのです。

最後にスポーツにまつわる言葉を述べます。「健全なる精神は、健全な肉体に宿る」という言葉をみなさんは聞いたことがあるかと思います。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタン男爵が好んで引用したラテン語の言葉として有名です。これは、古代ローマの詩人であるユウェナリスの「風刺詩集」の一節に由来する言葉です。風刺ですから正確には、「健やかな身体に健やかな魂が宿るように祈るべきだ」と書かれているのです。つまり、肉体が頑強であっても精神

が健康であるとは限らないので、クーベルタンは、スポーツによって心身ともに調和のとれた人間を育てることを理想としていました。スポーツは精神を高めるものであると考え、スポーツで人間が理想に向けて努力する姿を「努力の祭祀」とまで呼んでいました。クーベルタンは、スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現を目指しました。

昨日の IOC 総会では、女性初の会長が選出されました。日本人初の渡辺氏も立候補しましたが、わずかに及びませんでした。日本のマネジメントも世界レベルに近づいています。本学でもスポーツをささえる人材づくりを進めていますが、心強い限りです。

このスポーツ大学で 4 年間学んだことは、身体のみならず精神も鍛錬されたことと思います。建学の精神である「桃李不言下自成蹊」のとおり、心身ともにバランスのとれたみなさんを慕って多くの人たちが集まることと思います。その際には本学行動指針である「忠恕」のとおり誠実に思いやりをもって行動してください。大阪成蹊学園の一員としての誇りを持ち続けてください。

4 年間で鍛えた身体と精神と知性とをもって、びわこ成蹊スポーツ大学の卒業生という誇りと自信を胸に新たなステージへと進み、これからの人生を豊かに過ごしてください。

以上をもちまして、私の祝辞と致します。ご卒業誠におめでとうございます！

2025 年 3 月 21 日

びわこ成蹊スポーツ大学
学長 間野 義之